

長岡市三島郡選挙区県議は「県民投票条例案」にどう答えたのか

*すべての会派が「143,196筆の署名を重く受け止める」と発言していたのにどうして結果が「否決」になってしまうのか？ 以下、発言を（新潟日報掲載より）検証します。

【賛成】1名

◇未来にいがた 諏佐武史県議「最も民主的な方法だ。学説などを見ても今回の事例にそぐう」

【反対】5名

- ◆自民党 荒木法子議員「二者択一の数の結果だけでは、賛否の背景にある思いを知り得ない」（←**県民投票はアンケートではありません**）
- ◆自民党 深見太朗議員「原発の再稼働の有無は県政に大きな影響がある。今後の県政のビジョンも含め、検討されるべきだ」（←**「原発＝国策」的考えです**）
- ◆自民党 高見美加議員「原発再稼働は国のエネルギー政策が絡んでくる。県民が決めることができる問題ではない」（←**自民党のよく使う国策＋県民能力なし論です**）
- ◆自民党 柄沢正三議員「法的拘束力がない住民投票の結果が知事、議会を束縛する可能性がある上、責任の所在が不明確になる」（←**県民の声を聞き決めるのは知事**）
- ◆公明党 安沢峰子議員「二者択一では多様な意見が吸い上げられない。分断を生み地域が混乱する可能性がある」（←**国が頻繁に来県していることが混乱の源です**）

*4/16～4/18の「県議会臨時会」を傍聴した感想です。

- 「決める会」が求めたにもかかわらず、実現されなかったことが2つ。納得できません。
 - ①参考人が一人だけで、反対会派の意見を代弁していた。
 - ②十分な審議時間が確保されなかった。
- 「決める会」は県民投票で「県民の声を表明する機会」を設けてほしいと言っているだけに反対会派は再稼働の是非が決まるかのように反論していました。「マスコミ」も加担した感がありました。
- 反対会派は主権者である県民の声を聞かず、県民の能力がないと断定しているのは問題です。しかし、明らかになったこともありました。
 - ①花角知事は「信を問う」の材料を得るため、公聴会等具体化すると述べた。
 - ②間接民主主義を補完する側面を持つ住民投票を実現しなかった自民党県議団をはじめ、県議会にはその分の責任がさらにのしかかる。県議も信を問われる。

「決める会長岡実行委員会」は、缶バッジ・県民投票の歌・ショート動画・知事宛ハガキ県議宛ハガキを広め、全県をリードしてまいりました。

特にゼロネットの「巨大プラスター」は、本請求集会会場で存在感を示してくれました。

原発再稼働させないため、地元県議の発言を忘れず動向を注視していきましょう。